青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

「教員免許状更新講習　学校教育と体験活動Ａ」

１．趣旨

社会の発展とともに子どもを取り巻く環境は大きく変化した。特に、自然体験活動の経験が減少し、自然や人との関わりから得られる知恵や知識、能力が身に付かず、「社会性」や「生きる力」が十分に育っていない子どもが多くなっている。

そこで、本講習では学校教育における体験活動の意義を再認識するとともに理解を深め、実際の教育現場での活用の仕方について考える。そのために、大学教員や自然の家職員の講義に加え、自然の家で実施している「自然体験活動プログラム」を実際に体験することによって、体験活動についての基本的な考え方や指導技術等を身に付ける。

２．主催・共催

主催：国立大学法人　宮城教育大学

共催：独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立花山青少年自然の家

３．事業の概要

（１）期日　平成２８年８月８日（月）〔日帰り〕

（２）参加者

①参加対象及び人数

教員免許状更新対象者　３０名

②参加人数　３０名

幼稚園・保育園教諭（７）、小学校教諭（１１）、中学校教諭（５）、高等学校教諭（７）

４．企画・運営のポイント

宮城教育大学と国立花山青少年自然の家それぞれの特徴や教育資源を生かし、互いに連携・協力しながら講習を実施した。

５．日程

時刻	プログラム	内　　容　　等	場所
9：00 9：10	【開講式】	インフォーメーション 諸連絡（事務局）	大研修室
9：10 10：10	【講義１】 「学校教育と体験活動」	講師：宮城教育大学 教授　笠間　賢二	大研修室
10：20 11：10	【実習１】 「アイスブレイキングの手法」	講師　国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野　浩二	大研修室
11：10 12：00	【講義２】 「体験学習法の理解」	講師　国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野　浩二	大研修室
12：40 14：10	【実習２、３】 「火起こし体験」 「焼板作り」	講師　国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 山田　健一	工作館
14：10 15：40	【実習４】 「スコアオリエンテーリング体験」 ※荒天のため、「館内オリエンテーリング」に変更した。	講師　国立花山青少年自然の家 企画指導専門職 山田　健一	屋外 ※屋内
16：00 16：20	【実習５】 「ふりかえり」（評価と反省）	講師　国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野　浩二	大研修室

16：30 17：10	【試験】 「筆記試験」	講師　国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野　浩二	大研修室
17：10 17：15	【評価】 「アンケート記入」	講師　国立花山青少年自然の家 主任企画指導専門職 狩野　浩二	大研修室
17：15 17：20	【閉講式】	インフォーメーション 諸連絡（事務局）	大研修室

６．主な活動内容

【講義１】「学校教育と体験活動」

【実習１】「アイスブレイキングの手法」

【実習２】「火おこし体験」

【実習３】「焼き板作り」

【実習５】「ふりかえり」

７．成果と課題

（１）参加者アンケート結果

満足：８７％　　やや満足：１３％　　やや不満：０％　　不満：０％

（２）参加者の声

・自然の中での体験活動の楽しさを味わいながら教育的意義や効果を学ぶことができました。教師も体験することって大切ですね。

・とても楽しく活動でき、そして大変勉強になりました。体験を通して学んだことは忘れずに身に付くことを再認識しました。

（３）成果

①大学と自然の家が連携したプログラム構成により、自然体験学習の実践を通して講義内容の深化が図れるため受講者の評価も高かった。

②グループでの体験活動を通して、受講者相互による「意見交換」や「教え合う場面」が見られると共に、教育現場での実践に役立てようとする意欲を感じることもできた。

③理論と実践を組み合わせながら、受講者自身が児童・生徒の立場になって体験活動の教育的効果と有効性を実感することができたと考える。

（４）課題

受講者へ準備物や時程等の情報提供を正確に発信するために大学との連絡を密にしていく必要がある。大学の教授による講義と自然の家で行う実習について整合性がとれてはいるが、資料の重複がないように大学との情報共有をしっかり行っていきたい。

担当：主任企画指導専門職　狩野　浩二